

ミトン屋のレシピ vol.6

————— 野の花のミトン

【使用糸】 中細毛糸

【使用針】 0号5本針（もしくは輪針）

【ゲージ】 8cm x 8cm で縦30段、横29.5目

<注意点>

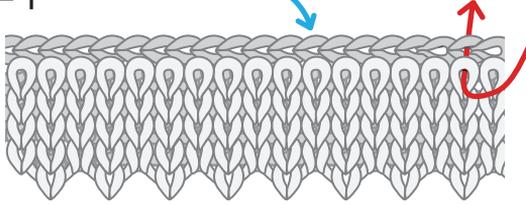
- ・2色で柄を編むときは地色の糸、柄色の糸を常に同じ重ね方で編みます。
例えば「地色を手前、柄色を奥」と決めたら最後までその重ね順で編むと柄の出方が安定します。（柄がきれいに出来る重ね方を確認してください）
- ・5目以上横に糸が渡る場所は2色の糸を絡めるように交差させて編みます。
ミトンに手を入れるときに渡り糸に指が引っかかりにくくなります。
*糸を絡めると重ね順が逆になりますので、再び絡めて元の重ね順にもどしてください。
*次の段でも糸を絡める場合は必ず前の段とは違う位置で絡めてください。
前の段と同じ位置で絡めると編み地が割れて渡り糸が見えてしまいます。
- ・手の加減の目安として編んでいる途中で糸がかかっている針を左右にスライドさせてみてください。
きつすぎず、ゆるすぎない状態で普通に動かせるのが望ましい手の加減です。
- ・糸が割れてしまったり、「あっ!」と思ったときには戻って編み直すことをおすすめします。
「ま、いっか」とそのまま編み進めると、次の段がまた編みにくくなり編み地が整いません。
- ・慣れないうちは早く編むことよりも、美しく編むことを気にとめながら編んでみてください。

編み方

- ① 指にかける作り目で72目作り、輪にしたら1目めには取りはずせるマーカーをつけます。
（作り目を1段目に数えます。）
- ② 2段から5段まで表編みを編みます。
- ③ 6段目は掛け目と右上2目一度を繰り返します。
*掛け目をきつくしすぎるとピコットが浅くなってしまいます。多少ゆるいくらいでも大丈夫です。
- ④ 10段まで表編みを編んだら11段目で「図-1」を参考に6段目から折り返して作り目に編み留めていきます。1目めは工程①でマーカーを付けた目と2目一度をします。
2目めからは図を参考に作り目の鎖の目のむこう側をすくって編み留めていきます。

図-1

作り目の段



*編み留めることが難しい場合は
最後にまつり縫いをして本体に
縫い止める方法もあります。

⑤ 12 段、13 段の 2 段を使ってキヒノヴィッツの模様を編みます。(下図参照)

よく見られる 3 段を使う矢羽模様のキヒノヴィッツとは違い、今回は
エストニアの編み物でよく見られる 2 段で作るキヒノヴィッツを編んでいきます。

5-1) 12 段目は編み図の通り、1 目ずつ交互に色を変えて 1 段編みます。

5-2) 13 段目は 12 段目とは色が互い違いになるように、1 目ごとに糸を下から絡めるように交差させ
ねじりながら裏編みを編みます。(図 5-2)

5-2



下から、下からねじって裏編みを編みます。
12 段目で編んだ色と逆の色の順番で
裏編みを編んでいきます。

⑥ 14 段から 34 段までは編み図の通りに柄を編み込んでいきます。

⑦ 35 段、36 段の 2 段を使って再びキヒノヴィッツを編みます。

⑧ 37 段から 49 段まで編み図の通りに柄を編み込んだら、50 段目では親指の位置で
別糸を使って 12 目編みます。

⑧-2 別糸で 12 目編んだら右の針から左の針に再び別糸で編んだ目を戻し、別糸の上から
柄の続きを編んでいきます。

⑨ 51 段から 85 段まで編み図の通りに柄を編み込んでいきます。

⑩ 86 段目から先端に向かって図の通りに減らし目をしていきます。

*図の通り、両端の 1 目はそのまま編み、その内側の 2 目を使って
右は右上 2 目 1 度、左は左上 2 目 1 度をして減らしていきます。

⑪ 101 段まで編み、残りの目が 8 目になったら糸を 15cm くらい残して切り、
とじ針で残りの目に糸を 2 周くぐらせ、絞り留めをします。

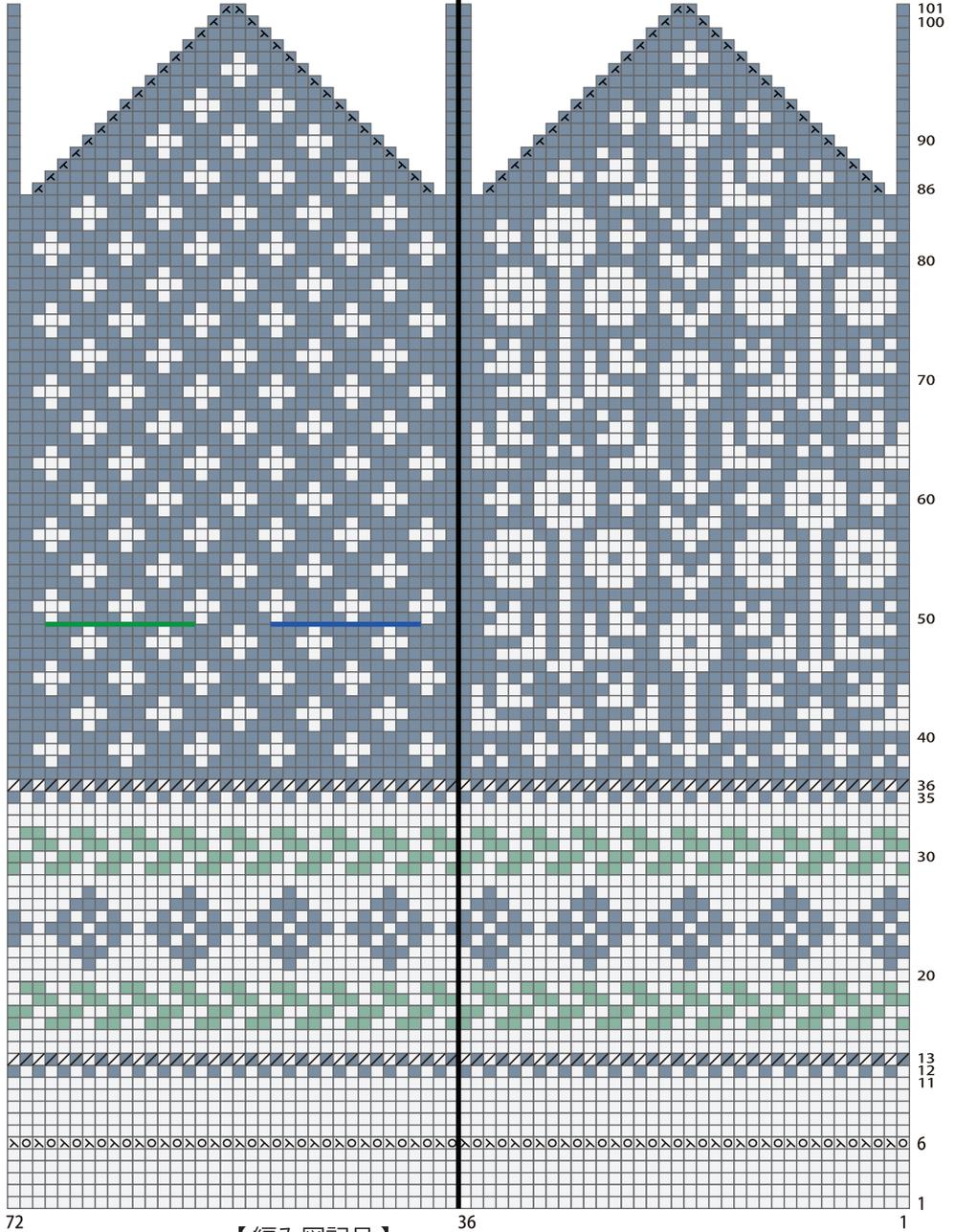
⑫ 糸をてっぺんの穴から中に引き入れたら本体は編み終わりです。

*絞り留めをするときと、糸を中に引き入れる際には糸が切れないように
気をつけてください。

【編み図】

中央

- 地色
- 柄色
- アクセント色



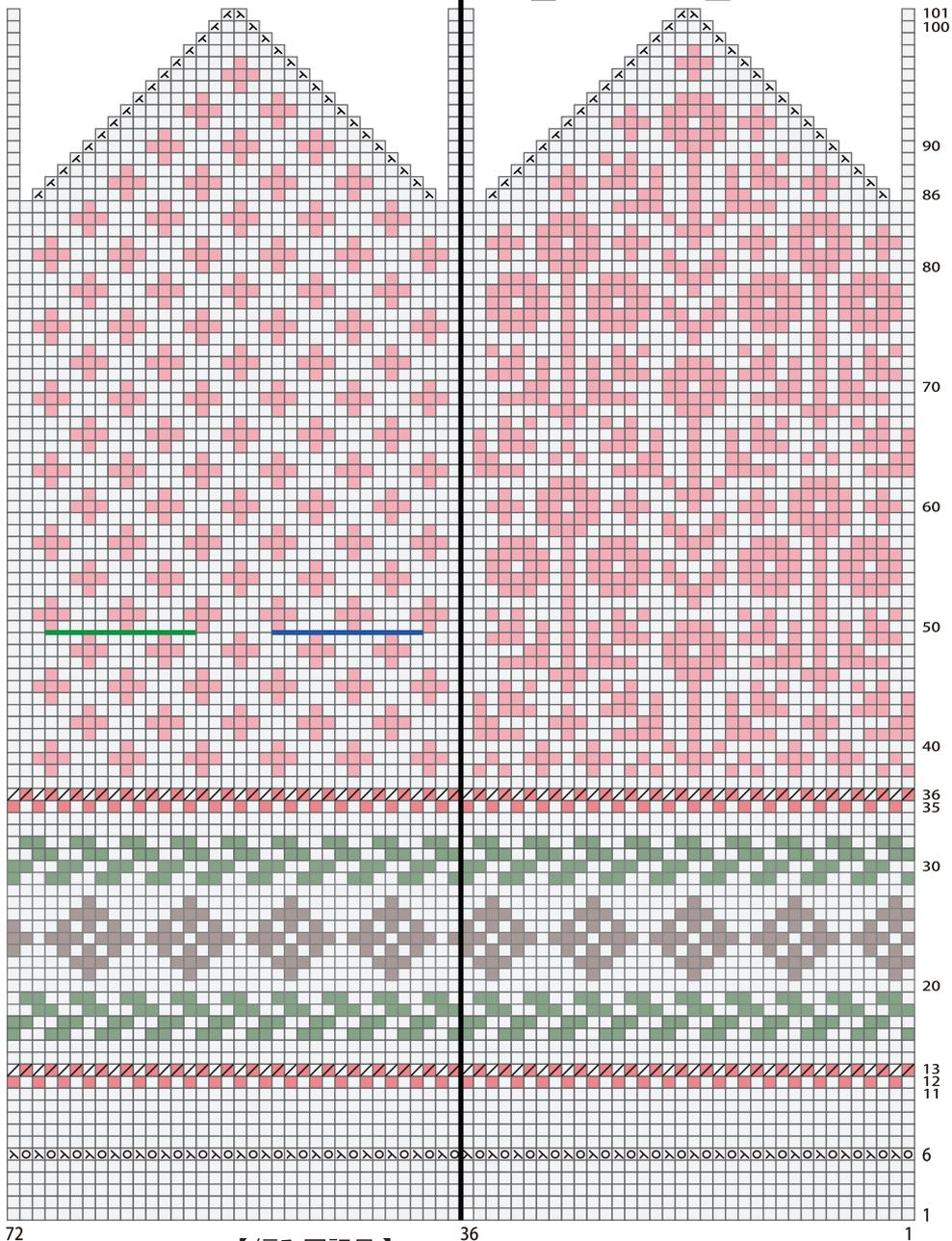
【編み図記号】

- 右手親指の位置
- 右上2目一度
- 掛け目
- 下へねじるねじり裏編み
- 左手親指の位置
- 左上2目一度
- 裏編み

【編み図】

中央

- 地色
- 柄色
- アクセント色
- アクセント色 2

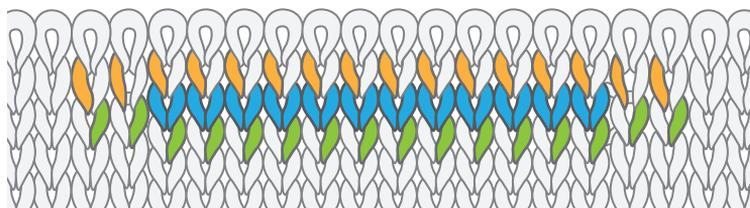


【編み図記号】

- 右手親指の位置
- ⊗ 右上2目一度
- ⊙ 掛け目
- ⊚ 下へねじるねじり裏編み
- 左手親指の位置
- ⊙ 左上2目一度
- ⊚ 裏編み

■ 親指の編み方

【目の拾い方図】



-  別糸で編んだ目（12目）
-  上の針ですくっていく部分（全部で16目すくう）
-  下の針ですくっていく部分（全部で16目すくう）

* 別糸で編んだ部分の両脇2目ずつを下の針、上の針にかけて編みます。

* 変わった編み方ですが、10年試行錯誤を重ねてたどり着いた編み方。

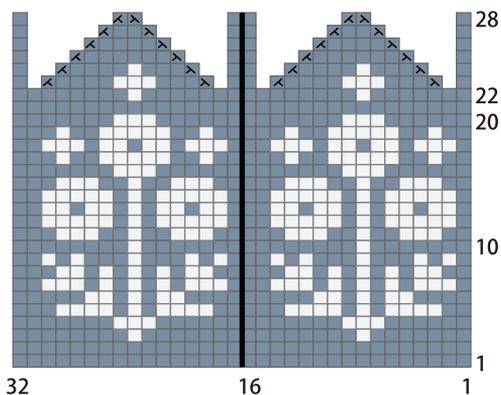
この編み方をすると糸始末で穴を隠さなくても親指の付け根に穴があくことがありません。是非試してみてください。

編み方

- ① 上記の親指の「目の拾い方図」を参照して拾い目をし、別糸をほどきます。
- ② 2段表編みで編み、3段から22段まで編み図の通りに柄を編み込んでいきます。
- ③ 23段目から先端に向かって本体と同じく左右で減らし目をしていきます。
- ④ 28段で残り8目になったところで

本体と同じく絞り留めをして
糸を中に引き入れたら完成です。

【親指編み図】



◆ 最後の仕上げ ◆

7ページの「ウール仕上げ」
を参考にお好みの方法で
仕上げてください。